

宮古民報

2015. 4. 26
第1415号

日本共産党
宮古地区委員会
市内宮町4-6-49
電話62-5808
FAX 62-3897

しんぶん赤旗
日刊紙3497円
日曜版 823円

山口地区 地盤強度測定で不一致 三陸沿岸道路整備事業の代替地

東日本大震災から復興道路に位置づけられた三陸沿岸道路整備事業の補償代替地の地盤強度への苦情が出ています。



地盤強度の補強工事現場 山口跡地

宮古市は以前に取得した山口の旧雇用促進住宅跡地を三陸沿岸道路整備事業で買収された地権者へ代替地として提供しています。

調査してNG

市は宅地地盤強度について国土交通省基準を達新築しようとしたら地盤強度に問題があり、地盤強度の補強費用をめぐってその方は市と交渉を続けています。

定住化を考える ⑬ とどまりと移住者で

シリーズ

「定住化」の切り札は住民が生まれ育った故郷にとどまり、移住者を増やす、に大別されます。また、それを可能にする施策の構築が課題になります。

市の色は青が圧倒

市は施策の組立に他人の目を取り入れる手法で、復興事業に従事した宮古市への派遣職員に「定住促進に関するアンケート」を2013年10月に行っています。



「青」で、回答者の5割以上です。複数の色で回答したのを加えると約8割に達します。

都市間移動が悪い

市の「良いところ」では約

議案審査方式 6月議会 常任委員会付託に変更



員長の判断に任せていました。しかし、担当課などでは議案によっては同じ説明をすることもあり、改善が課題でした。また、現行の方式では議会に正式提案されていない事業の事前審議にもなりかねないなどの問題が指摘されていました。

議員質問に委員長答弁

今後は各常任委員会の活動強化を目的に補正予算も分科会審査となります。

議運の協議では、本会議で付託された以上は他の常任委員会所属議員からの質問には予算委員会内部で委員長が答弁することになります。

4月17日の議会運営委員会（議運）は、6月等の定例会以降の予算や条例議案の審査方法を協議しました。その結果、それまでの本会議審議・決定方式から各常任委員会に議案を付託する審査方式に変更することを決めました。

事前審査の懸念も

宮古市は議案の事前説明は事業を所管する常任委員会で行い、議員全員協議会の開催は各常任委

「と譲りません。高台移転事業などを受け持つUR（都市再生機構）では「造成宅地の品質確保とお客様への情報提供」の冊子を作成、住民の理解を得たい考えです。

荷重基準の一致を

国土交通省の基準は地盤面下50センチから原地盤までの区間で1平方メートルあたりの耐圧度は3万ト以上です。市は強度基準の検査方法、スウェーデン式サウンディング試験で地盤面下50センチから2・5メートル間1平方メートルあたりの荷重100キログラムで、自沈がないことを確認していると言っています。

緊急雇用創出事業を継続

一口メモ

昨年共産党が行った予算要求のうち、緊急雇用創出基金事業の継続要求に対し、厚生労働省の担当者から以下のような回答がありました。

（答）被災地の復興にはなお時間を要するとも

に依然として多くの被災された方々が避難する状況が続いているため被災された方々の雇用の場の確保・生活の安定を図ることは厚生労働省として重要と認識している。平成27年度に事業を延長し基金の積み増しを行う。

桜をだしに花見の季節を迎えた。花より団子は庶民の率直な気持ちの代弁かも知れない▼花は風景を団子は食欲の象徴だ。円安効果で海外からの観光客の増加が続いている。統計を取り始めて以来の数値の背景には桜を見るのが目的とか▼一方で円安は食料品の値上げ理由にされ、庶民の生活を圧迫する。唯一の狂いは原油価格の暴落だ。それが無ければ生活はさらに苦しくなった▼宮古の桜はつぼみのうちに「うそ」という鳥に食べられ、あまり期待できないとの情報もある。円安は輸出産業には有利で、新たな雇用の拡大を期待されたが実感がない▼日本の大企業は、円高に対応できるよう筋肉体質になっている。円安はそんな企業に空前の利益をもたらす。庶民増税の一方で、大企業には減税。アベコペ内閣との批評も聞かれる。

